

”SPH身についた力” ルーブリック～実習編～

年 組 番 氏名

	SPHで身につけた力	ありたい像	5	4	3	2	1
豊かな人間性 (常盤高校が考える豊かな人間性)	他者を尊重する	人の話をよく聞きその内容をもとに他者を尊重し、他者に配慮し、倫理にもとづいた行動ができる。	他者の意図を汲み取ろうと自分の聞く態度に配慮して他者が話しやすい雰囲気を作り、他者を尊重して善い方に向けた行動ができる。	話の内容を確認しながら話を聞き、他者が意図していることを汲み取り、善い方法を考えることができる。	相槌を打ちながら他者の話を素直に聞き入れることができる。	他者の話を聞くことができるが、自分の意見を優先しがちである。	他者の思いに目を向けることができていない。
	協調性	場の状況をよみ自分の役割を理解し、その役割を果たすことができる	チームの中で、リーダーシップを発揮することができる。場に合わせた「ほうれんそう」やカンファレンスでの積極的な発言ができる。	チームの中でメンバーシップを果たすことができる。場に合わせた行動ができる。	場に合わせた行動ができる。チームメンバーへの配慮がある。	他のメンバーへの配慮が少ない。場に合わせた行動も乏しい。	他のメンバーへの配慮がない。場に合わせた「ほうれんそう」がなく、カンファレンスでの発言も少ない。
	自己理解 折れない心 高い志	粘り強くあきらめずに取り組むことができる	自分の思いと異なる事象が発生した際に、それを解決するための方策を考え、実践することができる。	自分の思いと異なる事象が発生した際に、それを解決するための方策を考えることができる。	自分の思いと異なる事象があっても前向きに取り組むことができる	自分の思いと異なる事象に向き合おうとする。感情のコントロールができない。	自分の思いと異なる事象に対して向き合わず、あきらめてしまう。感情のコントロールができない。
	感性が豊か 協調性	他者の立場に立って、思いを汲み取り優しく思いやりのある行動ができる	柔軟性をもって患者の思いを汲み取り、行動計画、実施に反映させ最適なケアを実践することができる。	患者の思いを汲み取りケアを考え、行動計画に反映させ実践することができる。	患者の思いに気づくことができる。行動計画に反映させることができる。	患者の思いに気づくことができるが、それに対応するための行動に至らない。	患者の思いに気づくことができない。
	社会人の基本スキル	社会の一員として良識を持ち、規範を守り、責任のある行動をとることができる。	常に、時間管理ができる。TPOに応じた挨拶ができる。礼儀正しく規律を守ることができる。他の生徒の模範となる行動ができる。	常に、時間管理ができる。TPOを考えた挨拶ができる。礼儀正しく規律を守ることができる。	自分からあいさつができる。時間を守る、提出物の期限を守る等の約束事を守る事ができる。	助言を受けて、時間を守り、提出物の期限を守る事ができる。また、自分からあいさつすることができる。	助言を受けても時間が守れず、提出物の期限も守られない。また、自分からあいさつすることができない。
確かな知識・技術	臨地のイメージ力	援助においてプロセスや成果をイメージし、実施できる。	対象の状況を十分にイメージし、手順書を作成し、最も適した方法で実施できる。かつ、患者に起こりうる危険を予測し、回避する行動がとれる。	対象の状況をイメージし、個別性を反映した手順書は作成し、実施できる。かつ起こりうる危険性を予測している。	対象の状況をイメージし、個別性を反映した手順書は作成し、実施できるが、起こりうる危険性を十分に予測できていない。	対象の状況をイメージし、標準的な手順書を作成し、実施している。	標準的な手順書を作成し、実施している。
	知識力・技術力	既習の知識が定着し、またさらに知識を得ようと自発的に意欲的に学習できる。 必要な看護技術を習得し、安全・安楽に実施できる。	既習内容が定着している。かつ自発的な学習を通して獲得した知識を活用している。	既習内容がほぼ定着しており、助言により新たな知識を獲得している。	助言をもとに必要な知識を意欲的に獲得している。	助言をもとに必要な最低限の知識を獲得している。	知識が不足し、学習意欲も感じられない。
			対象の生活背景や個性に合わせて、優先順位を考えたうえで、原理原則に基づいた援助が安全・安楽に実施できる。	対象の個性に合わせて、原理原則に基づいた援助が安全・安楽に実施できる。	環境を整え、原理原則に基づいた援助が安全・安楽に実施できる。	原理原則に基づいた援助が安全に・安楽に実施できる。	原理原則に基づいた援助が（安全に・安楽に）実施できない。
	情報活用能力	必要な情報を最適な方法で収集し、分析や判断に活かすことができる。	対象の状況をふまえ、把握するための技術を適切に実施（VS・フィジカルアセスメント）し、その情報をアセスメントしている。	対象の状況をふまえ、把握するための技術を適切に実施（VS・フィジカルアセスメント）している。	対象の状況を把握するための技術（VS・聴診法等）を実施している。	対象の状況を把握するための技術（VS）を正確に実施している。	対象の状況を把握するための技術が正しく実施できない。
必要な情報を、情報の特性を理解した上で効果的・効率的に収集している。かつ情報内容を吟味し、取捨選択し、意図的な情報収集し、分析や判断に活用している。			必要な情報を効率的に意図的に収集し、分析や判断に活用している。	助言をもとに必要な情報を効率的に意図的に収集し、分析に活用している。	助言をもとに、必要な情報を限られた手段で収集している。	助言があっても情報を収集することができず、指示された資料や内容のみまともめられる。	
科学的思考判断	論理的に考える力	専門知識を最大限活用して現象を的確にとらえ、論理的に考えて判断することができる。かつ、適切な表現で記録することができる。	対象の個別の状況を的確にとらえ、看護の必要性について、専門職者として個性性を考慮して的確に判断することができる。	対象の状況をある程度的確にとらえ、看護の必要性について、個性性を考慮して判断することができる。	対象の状況の概要をとらえ、看護の必要性について、判断することができる。	対象の概要はある程度とらえてはいるが、看護の必要性を考えるとできない、または、考えてはいるが適切な判断とは言えない。	対象の概要をとらえられず、看護の必要性に気付けない。
	科学的視点（思考スキル）	看護実践において科学的根拠や有効性・妥当性を考え、対象にとって最も適した看護の方法を考えることができる。	看護実践において科学的根拠や有効性・妥当性を考え、個性性を考慮して最適な看護の方法を考えることができる。	看護方法を実践するにあたって、個性性を考慮し、科学的根拠とその有効性・妥当性について検討している。	看護を実践するにあたって、根拠と、その有効性について考えることができる。	標準的な看護を実施するとき、根拠を自分なりに考えることができる。	標準的な看護を実施する理由について、考えることができない。あるいは、実施すべき看護を考えることができない。
	文献検索力（情報を見極める力）	臨地実習を通して感じた疑問から、研究課題を見出し、文献検討して、研究疑問を精錬することができる。	臨地実習を通して感じた疑問から、先行研究を検索し、研究につなげることができる。	臨地実習を通して感じた疑問から、課題を見出し、先行研究を検索することができる。	実習を通して何らかの疑問を感じ、看護に関する情報を集めている。	実習を通して感じた疑問はあるが、看護に関する情報の収集には至らない。	実習での経験に客観的な疑問を感じるがない。
	クリティカルシンキング（論理的に考える力）	クリティカルな視点で看護実践を振り返り、効果と妥当性を評価・考察し、次の実践に向けて新たな検討ができる。	対象の反応から看護実践の効果と妥当性を考え、客観的に評価・考察するとともに、次の実践に向けて新たな検討ができる。	自分の看護実践の効果と妥当性を考え、客観的に評価することができる。	自分の看護実践を振り返り、その効果と妥当性について考えることができる。	自分の看護実践について、の反応などから効果を振り返ることができる。	自分の看護実践の振り返りの必要性を感じない。
生涯学び続ける力（3つを統合して得る力）	イメージする力	自分がこれからすることを具体的に思い浮かべ、先を予測できる。	自分がやるべきことは何かを見極め、自ら取り組むことができる。	自分のありたい像をイメージし、行動するヒントを自ら探すことができる。	周囲からアドバイスにより、期待されている自分の役割を把握して行動することができる。	自分のありたい像をイメージできるが、どう行動したらよいか、わからない。	自分のありたい像をイメージできない。
	課題発見力	自分の現状を見て問題点を見いだせる。	自分を客観的に評価することにより、課題を発見し、解決策を見つげることができる。	課題を明らかにするために、他者の意見を積極的に求め、分析できる。	現状を正しく認識するために、情報収集することができる。	自分の現状に問題があると気づいている。	自分には問題がないと考えている。課題を発見しようとする意欲がない。
	課題解決力	目の前の状況を見て自分の問題を発見し、知恵を出して解決・実行できる。	目標達成に向けて粘り強く、困難な状況から逃げずに挑戦できる。更にその計画を俯瞰し、進捗状況や不測の事態に合わせて柔軟に行動を修正できる。	目標達成に向けて、不測の事態が起きた場合にも、取り組み続けることができる。	予定したことについては計画通り実践できる。他者のアドバイスにより、不測の事態には対応できる。	課題を解決する意欲はあるが、行動に移せない。	課題を解決する意欲がない。困難な状況に立ち向かう気持ちが弱い。
	コミュニケーション力	自分の考えや気持ちを相手と交換できる。	自分の考えを具体的かつ論理的にわかりやすく伝えられる。同時に、自分の意見を持ちながら、相手の背景や事情を考慮して共感をもって受け入れられる。	自分のことをある程度伝えられ、かつ、相手の事情を理解しようとする態度はみられる。	自分のことを伝える表現力は乏しいが、相手のことを聴こうとする態度はみられる。	自分のことを伝える意欲はあるが表現が乏しく、相手の気持ちも理解することができない。	自分のことを伝えようとする意欲がない。
	プレゼンテーション力	自分の伝えたいことを表現し、相手を納得させることができる。	効果的な手段を活用することで、相手を納得させる、周囲の人を動かす、行動変容させることができる。	効果的に相手に働きかけ、相手の同意を得ることができる。	未熟ながらも自分の伝えたいことが伝わり、相手に理解してもらえる。	自分の伝えたいことを表現し、相手を動かそうとするが、手段が未熟で伝わらない。	相手を動かす意欲がない。